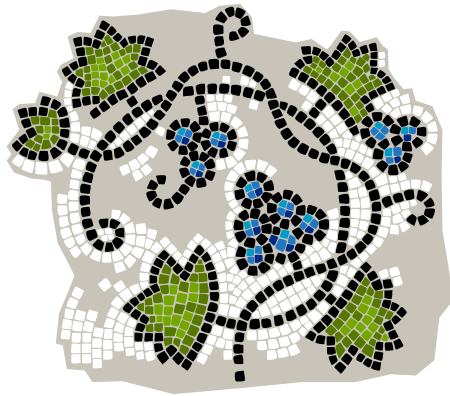


第22回 全国キリスト教学校人権教育セミナー

「子どもの命を生かし、つなぐもの」 — 尊厳と自由の回復をめざして —

2011年8月8日（月）～10日（水）

会 場：横浜共立学園中学高等学校



主催

第22回全国キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会

全国キリスト教学校人権教育研究協議会

(ホームページ <http://zenkiri.junyx.net>)

開催の目的

- ①キリスト教学校および公私立学校で人権教育に関心を持っている教職員、また人権教育に関心を寄せるキリスト者・市民・保護者・学生の出会いの場をもつ。
- ②人権教育の実践に学び合い、分かち合い、建設的な関係を築く。
- ③キリスト教学校での人権教育のあり方を探求し、人権教育の広がりを作る。

第22回 全国キリスト教学校人権教育セミナー要項

「子どもを生かし、つなぐもの—尊厳と自由の回復をめざして—」

主の御名を賛美いたします。

全国キリスト教学校人権教育研究協議会は、キリスト教学校や教会での人権教育を深めるため、夏季の全国セミナー、そして各地域でのセミナーを開催しております。2011年は第22回全国セミナーを神奈川県横浜市の横浜共立学園中学高等学校にて開催いたします。

今回のテーマは「子どもの命を生かし、つなぐもの—尊厳と自由の回復をめざして—」です。プログラムとして、「横浜」に視点を置いた3つのフィールドワークや、「なぜキリスト教学校に人権教育が必要か」という主題の講演などを準備しています。また、関東開催のセミナーではこれまで、若者たちの声を聴いてきましたが、今回はその若者たちを支えている方々の声を聴く予定です。

今、私たちの住む日本は、大震災や原発問題など生命に関わることに直面しています。そのような状況の中で、多くの子どもたちは物理的に「一回限りの人生を、自分らしく生きること」が困難になっているといえます。だからといって、精神的にも「自分らしく生きられない」状況を、そのような不自由な状況を看過することは、教育に携わる者としてあってはならないと考えます。日々共にいる子どもたちの尊厳と自分らしく生きる自由のために、私たちは学び続ける必要があるでしょう。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

●テーマ 「子どもを生かし、つなぐもの—尊厳と自由の回復をめざして—」

●日程 2011年8月8日(月)～10日(水)

●会場 横浜共立学園中学高等学校

HP : <http://www.kjg.ed.jp/>

〒231-8662 神奈川県横浜市中区山手町2-1-2番地
JR 京浜東北・根岸線 「石川町駅」元町口(南口)下車徒歩10分

●参加費 (事前振込となります)

《全日程参加》 出張 16,000円 / 自費 12,000円 / 学生 10,000円

(参加費にはセミナー諸費用・食事代・ニュース購読費が含まれます)

《部分参加》 1コマ(午前・午後は各1コマ) 2,000円×コマ数 + ニュース購読費 3,000円

※部分参加の場合は、食事の要・不要も「参加申込書」にお書きください。

☆フィールドワークはオプションで、参加費は当日現地でお支払いください。

●フィールドワーク (オプション) ※詳しくは6頁の案内をご覧ください。

- ①横浜の被差別部落 参加費 1000円 (申込先着 20名)
- ②関東大震災朝鮮人虐殺の現場をたどる 参加費 1000円 (申込先着 15名)
- ③日雇い労働者と福祉の町、寿町を訪ねる 参加費 1000円 (申込先着 15名)

●申込 7月8日(金)までに、別紙の申込書2枚を下記へ封書またはFaxでお送りください。

または、「全国キリスト教学校人権教育研究協議会」のHP <http://zenkiri.junyx.net> から申込書をダウンロードして、メールに添付してください。

●申込先 【郵送】〒231-8662 横浜市中区山手町212番地 横浜共立学園

「第22回人権教育セミナー実行委員会」

【FAX】045-641-9188 【メール】zenkiri2011@yahoo.co.jp



※お問い合わせはメールまたはFAXにてお願いいたします。

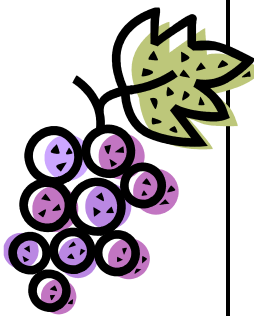
※参加を申し込まれた方には7月末日までに受付確認書をお送りします。

●参加費振込先 郵便振替口座 番号: 00290-0-53961 加入者名: 第22回人権教育セミナー実行委員会

※7月22日(金)までにご送金ください。

●宿泊 各自でご予約ください。

2011年度 第22回全国キリスト教学校人権教育セミナー日程

1日目 8月8日(月)	
12:30～16:00	フィールドワーク (各15～20人。時間帯・集合場所はそれぞれ) ①横浜の被差別部落：中村彰信さん ②関東大震災朝鮮人虐殺の現場をたどる：後藤周さん ③日雇い労働者と福祉の町、寿町を訪ねる：三森妃佐子さん
16:30～	セミナー参加者受付開始
17:00～18:00	夕食 (お弁当とお茶を用意します)
18:00～18:30	開会礼拝：郡司啓子さん
18:30～19:00	基調報告：渡辺友紀さん 会場校あいさつ：坂田雅雄さん
19:00～20:00	講演：関田寛雄さん「なぜキリスト教学校に人権教育が必要か」
20:30～	移動 懇親会 (オプション)
<div style="text-align: right; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> フィールドワーク はオプション。 </div>	
2日目 8月9日(火)	
9:00～ 9:15	朝の祈り／黙想と賛美 奏楽：中村証二さん
9:15～10:15	聖書研究：平良愛香さん「性的少数者だから読める聖書」
10:30～12:30	全体会1「さまざまな命とつながるために」 発題：竹川真理子さん 井上収之さん 原ミナ汰さん
12:30～13:30	昼食 (お弁当とお茶を用意します)
13:30～17:30	分科会 ①キリスト教学校と人権—聖坂養護学校から見た人権教育 ②生と性の教育—性の多様性の視点から ③部落差別問題—私たちの暮らしと歴史から考える ④外国籍・外国にルーツをもつ子どもたち ⑤子どもの人権—DV・性虐待にさらされる子どもたちのケア ⑥歴史教科書から見た平和教育
18:00～20:00	交流会 (校内の山手214番館にて)
20:30～	移動 懇親会 (オプション)
	
3日目 8月10日(水)	
9:00～ 9:30	朝の祈り：山岸素子さん
9:40～11:15	全体会2「東日本大震災を考える—人権の視点から—」
11:30～12:15	派遣礼拝
12:20～13:00	昼食 (お弁当とお茶を用意します)
13:00～13:45	「全国キリスト教学校人権教育研究協議会」総会
14:00	終了

- 主催 全国キリスト教学校人権教育研究協議会／第22回全国キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会
- 後援 カトリック中央協議会学校教育委員会／キリスト教学校教育同盟／キリスト教保育連盟／全国在日外国人教育研究協議会／日本カトリック学校連合会／日本キリスト教協議会教育部
- 賛同 外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会／日本カトリック正義と平和協議会／カトリック部落差別人権委員会／在日韓国人問題研究所／在日大韓基督教会／日本キリスト教協議会在日外国人の人権委員会／日本キリスト教協議会部落差別問題委員会／日本基督教団在日韓国・朝鮮人連帯特設委員会／日本キリスト教団部落解放センター／日本キリスト教婦人矯風会平和部／日本聖公会人権担当／日本バプテスト同盟／日本バプテスト連盟在日・日韓連帯特別委員会／日本バプテスト連盟部落問題特別委員会／日本YWCA／部落問題に取り組むキリスト教連帯会議

＜プログラムの内容＞

～祈り～

【開会礼拝 8/8】 郡司啓子さん（ぐんじ・けいこ／横浜共立学園中高 宗教主事）

【朝の祈り・黙想と賛美 8/9】 奏楽：中村証二さん（なかむら・しょうじ／四国学院大学職員）

【聖書研究 8/9】 平良愛香さん（たいら・あいか／日本基督教団牧師）

主題「性的少数者だから読める聖書——コリントの信徒への手紙—12章12～26を中心に」

【朝の祈り・証言 8/10】 山岸素子さん（やまぎし・もとこ／「カラカサンへ移住女性のためのエンパワメントセンター」代表）

【派遣礼拝 8/10】

～講演～「なぜキリスト教学校に人権教育が必要か」

講師：関田寛雄さん（せきた・ひろお／日本キリスト教団神奈川教区巡回教師・青山学院大学名誉教授）

一口にキリスト教学校と言っても、全国にあるキリスト教学校はその創立の理念や歴史によって異なった特色があります。またキリスト教学校は教育機関であって教会ではないので、児童・生徒・学生たちに教える内容や伝え方が異なることも確かです。

教派や歴史を超えて、すべてのキリスト教学校に託されている重要な教育内容とは一体何なののでしょうか？ とすると、キリスト教の教義や聖書の内容を教えることに終始してはいないのでしょうか？

キリスト教学校でなされている教育は、キリストの生き方や言葉を、生徒たちの心に響かせることができているのでしょうか？ 揺れ動く心を支え、他者の痛みを共感できるような人格へと成長を促すには何が大切なのでしょうか？ あるがままの存在を大切に、自分と異質な存在を肯定することができ、偏見や差別観を正すような教育は、どのようにしたら可能なののでしょうか？

牧師として、キリスト教学校の教員としての豊かな出会い・活動・経験をもとに、本協議会の会長である関田寛雄先生に存分に語っていただきます。どうぞご期待ください。

～全体会～

【全体会1 8/9】「さまざまないのちとつながるために」

発題者：

①竹川真理子さん（たけかわ・まりこ／NPO法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾）

子供会活動などを通して、在日外国人と日本人が支えあいながら共生する社会を目指す活動を展開している。

②井上収之さん（いのうえ・しゅうじ／七生養護学校 性教育弾圧事件 原告）

「こころとからだの学習」の性教育の授業に対し、都議会議員から「不適切な性教育」として議会で取り上げられ、不当な弾圧をうけ裁判中。

③原ミナ汰さん（はら・みなた／“共生社会を作る”セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表）

セクシュアル・マイノリティが直面する問題を言葉にして、国や自治体・学校への支援を求める活動をしている。

この全国セミナーの関東での開催の全体会1は「子どもの声を聴く」ということが大きなテーマでした。今まで何人もの当事者の声に耳を傾け、学びを深めてきました。そこで今回は、子どもの周囲にいる大人、援助者であり当事者でもある方々からの現場の声を聴き、今回のテーマである「子どものいのちを生かしつなぐもの」に近づく手だてとしたいと考えました。私たちに何ができるのか、キリスト教学校の教員や子どもたちに関わっている大人に考えて欲しいことであり、問われていることではないのでしょうか。この3人の方のお話からの問題提起をうけ、考え、ともに深めることができればと思っています。

【全体会2 8/10】「東日本大震災を考える—人権の視点から—」

3月11日、東北・北関東沿岸部を地震と津波が襲い、一瞬のうちに、多くの人びとの命と生活を、根こそぎ奪った。震災直後から政府・自治体をはじめ、キリスト教会やNGO・NPOなども被災地に向かった。また海外からも、救援の手がさしのべられた。それから3カ月、しかし支援の手は、高齢者や子ども、障がい者、外国人など「震災弱者」のところまで、まだ十分に届いていない。被災者への支援を阻んでいるのは、今なお収束しない原発事故によってである。未曾有の天災と人災を前にして、私たちは微力であっても無力ではないことを信じて、被災者と共に歩み、現前のたくさんの課題を共に担い続けることを、21世紀のこれから生きる青年たち、子どもたちと共に考えたい。報告①外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会「各教派・団体の被災者支援活動3～7月」

②明治学院東村山中学高校有志ボランティア・チーム「被災者支援で感じたこと、考えたこと」 ほか

①キリスト教学校と人権—聖坂養護学校から見た人権教育

発題①：柴田昌一さん（しばた・しょういち／聖坂学院理事長）
松井務さん（まつい・つとむ／聖坂養護学校校長）
篠宮千尋さん（しのみや・ちひろ／聖坂養護学校 専攻科主任）

聖坂養護学校は、横浜市中区にある知的障がい児のための特別支援学校です。しかし、願いは「全ての子ども達が豊かな教育を受けられるように」です。実現には幾多の困難がありますが、共に学ぶインクルーシブ教育を目標に歩んでいます。学校設立の経緯、障がい児教育の現場から見えてくる現代教育の課題、また発達障害の理解についてもお話ししていただきます。（聖坂養護学校ホームページ <http://www.hijirizaka.jp>）

発題②：鬼形恵子さん（おのがた・けいこ／横浜英和女学院中高教員）

聖坂養護学校では、他校との交流も盛んに行われています。その一例として、横浜英和女学院中高との交流の様子を紹介します。

キリスト教学校では、さまざまな人権教育の取り組みが模索されていると思います。この分科会の後半は、障がい児教育の取り組みに限定せず、各校の現状や取り組みを分かち合います。もし参考になる資料等ありましたらぜひお持ちください。学校での取り組みや問題点、疑問など、気軽に話し合える分科会にしたいと考えています。

②生と性の教育—性の多様性の視点から

発題：平良愛香さん（たいら・あいか／立教大学で「性倫理とキリスト教」を担当）

現在私たちが「あたりまえ」だと思っている性や性関係のあり方（実はキリスト教が深く影響しているのですが）について見つめなおしてみます。

前半は性の多様性についての知識を整理する作業を行います。休憩をはさんで後半は性別二分法と異性愛主義がいかに社会にはびこっているかという現実を知ると同時に、「なぜ男性をレイプしても強姦罪が適用されないのか」「好ましくない性関係は本当に好ましくないのか」等々、性的少数者だからこそ気づけた視点を発題者が紹介しつつ、みんなで意見を分かち合いたいと考えています。

子どもたちは社会から様々な（ある意味偏った）情報を入手して、がんじがらめになっています。みんなでしっかり学び、考える機会にしていだければと思います。

③部落差別問題—私たちの暮らしと歴史から考える

発題①「観光都市鎌倉と被差別民衆の歴史と役割」

報告者：鳥山洋さん（とりやま・ひろし／神奈川県立横浜翠嵐高等学校 教諭）

発題②「三菱化学株式会社の人権問題への取り組み～なぜ、人権に取り組むのか～」

報告者：小原俊治さん（こはら・しゅんじ／三菱化学㈱ 人事部部長・人権室担当）

開催地の神奈川県は被差別部落の歴史は鎌倉幕府の成立期にまでさかのぼり、源頼朝が軍需物資の皮革の確保のために鎌倉の長吏に関東各地の革作を統治する権能を与えました。普段は観光都市として知られる鎌倉ですが、報告①を通して被差別民衆との関わりから改めてその歴史と担った役割を考えます。

また、2010年11月には社会的責任の国際規格であるISO26000（*1）が策定され、部落問題をはじめとした人権課題は企業のみならずあらゆる組織（学校や宗教団体も含む）で取り組むべき社会的責任であり、雇用における差別の排除や人権教育が具体的な取り組みとして掲げられています。

また、厚労省の勸奨による公正採用選考人権啓発推進員制度（*2）の設置や東京人権啓発企業連絡会（*3）などの企業自身の取り組みも行なわれています。こうした現代社会の特徴を踏まえ、生徒にとっても、将来、人権課題が職務となることも視野に入れた人権教育が推進される必要があり、報告②を通して企業の取り組みから学びます。

（*1）<http://iso26000.jsa.or.jp/contents/index.asp>

（*2）<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/equal/siryosaiyou-jinken/index.html>

（*3）<http://www.jinken-net.com/>

④外国籍・外国にルーツをもつ子どもたち

発題①：島本篤エルネストさん（しまもと・あつし えるねすと／神奈川県立高校教員）

あなたの学校に、「外国籍」あるいは「外国にルーツをもつ」子どもがいませんか？ いま日本に住む外国人は220万人以上となり、そのうち5～14歳の子どもは13万人。中国人、韓国・朝鮮人、ブラジル人、フィリピン人、ペルー人など外国籍の子どもたちです。この他に、日本人と外国人との国際結婚から生まれた「ダブルの子ども」も、毎年2万人以上誕生しています。その子どもたちは、日々の学校生活でどのような思いをもち、将来の夢を持っているのでしょうか？ そして、日本人の子どもたち、教員たちは、彼ら彼女たちにどのように接しているのでしょうか？ 発題者から神奈川県内の公立学校での取り組みと現状をうかがい、また参加者から各学校での現状を聞きながら、「多民族・多文化共生教育」の課題を考えていきます。

発題②：佐野通夫さん（さの・みちお／こども教育宝仙大学教員）

今年1月の大学入試センター『地理A』『地理B』において、在日コリアンに対する認識の間違い、在日コリアンへの偏見を助長する設問がなされました。この問題点を検証しながら、「人権教育」の課題を考えていきます。

⑤子どもの人権－DV・性虐待にさらされる子どもたちのケア－

発題：近藤恵子さん（こんどう・けいこ／全国女性シェルターネット共同代表）

新聞などで児童虐待による死亡記事を多く見ます。虐待といっても身体的暴力だけが虐待ではありません。実際学校の中で私たちは、いろいろな虐待をうけて助けを求めている子どもたちのサインに気づいているのでしょうか。家庭のなかの問題は一番弱い子どもに向けられます。発題者の近藤さんからは「DV家庭に育つ子どもたちの被害の深刻さについても、ようやく、認識が広がり始めました。しかし、目の前にいる被害児童の回復支援については、ほとんど手がつけられていないのが現状です。性暴力による被害も多く、その子の育ちに深刻な影響を与えます。これらの現実をふまえ、私たちが何を準備しなければならないのか、困難を抱える子どもたちをどう支えていけばいいのか、ご一緒に考えていきましょう」とのことです。事例検討やワークをしながら学びを深めたいと考えています。

もし相談が必要な事例などがありましたら、お持ちいただくとより具体的な学びになると思いますのでお待ちしています。

⑥歴史教科書から見た平和教育

発題：①茂呂秀宏さん（もろ・ひでひろ／元横浜市立中学校教員）

②金井敏博さん（かない・としひろ／元東京都立高校講師）

③小宮まゆみさん（こみや・まゆみ／横浜英和女学院中高教員）

2010年4月から、横浜市は市内8区の中学校で、自由社の『新編 新しい歴史教科書』が使用され、2012年4月からは全区同一の教科書が使用される可能性があります。この教科書は、文部科学省の検定の際、500カ所余りの指摘を受けて修正したという経緯だけではなく、教科書の内容そのものが問われています。現場の教員たちの戸惑いは計り知れません。急ぎよ自分たちで研究会をつくり指導方法などが模索されています。

この分科会では、3人の発題者から、教科書採択の経緯と背景、この歴史教科書の問題点を話してもらいます。そして、この問題がキリスト教学校にとって「対岸の火事」などではないことから、参加者の各学校において歴史教育・平和教育がどのようになされているかを分かち合いながら、生徒たちの心に働きかけ意識化させる歴史教育・平和教育を考えていきたいと思ひます。

フィールドワーク①

フィールドワークは全てオフションです。

横浜の被差別部落

東京に次ぐ大都市横浜は幕末開港を契機に外国人居留地の外国人や生糸貿易承認などが活躍する都市として出発し、国際貿易都市として発展してきました。

一方、今回現地研修をおこなう横浜市南部の六浦は中世鎌倉の外交として発展し、太平洋から瀬戸内、九州さらには大陸へもつながる貿易港でした。六浦の被差別部落では、戦国時代から江戸時代にかけて称名寺の太鼓の張り替えを担うなど革作りの技術者が活躍しました。

こうした歴史背景を持った横浜の都市部落がかかえている現状と課題について、現地と周辺の史跡を歩きながら、一緒に学び考えていきたいと思っています。

◇ 集 合：8月8日（月）13時、京浜急行「追浜駅」改札口

*快速特急は停車しないので、金沢八景駅で各駅停車に乗り換える。

◇ 講 師：中村彰信さん（部落解放同盟神奈川県連合会財務委員長／横浜市協議会議長）

◇ 参加者：申込先着 20 人

◇ 参加費：1000 円（資料代含む）

フィールドワーク②

関東大震災朝鮮人虐殺の現場をたどる

1923年9月1日、横浜市は町の中心部が潰滅する大きな被害を受けただけでなく、朝鮮人虐殺も激しかったところでした。当時、中村町は労働者の町でした。中村川沿いには土木労働者や沖仲士たちの木賃宿が建ち並び、朝鮮人労働者も暮らしていました。震災直後、中村町の丘陵地帯には、火に追われた被災者約10万人が避難してきました。そして、朝鮮人が襲ってくるというデマが9月1日夜から流れ、人びとは武装し朝鮮人虐殺に向かいます。横浜で最も早くデマの流れたこの地域に、子どもたちの作文が残されています。南吉田第二小、寿小、石川小の震災作文です。虐殺を目撃した子どもたちの作文を、徒歩でたどります。

◇ 集 合：8月8日（月）13時30分、横浜市営地下鉄「吉野町駅」改札

◇ 講 師：後藤周さん（元中学校教員／信愛塾理事）

◇ コース：吉野町駅改札 → 宝生寺「関東大震災韓国人慰霊碑」→ 中村橋：震災作文にある虐殺地 → 水道局資材置き場：避難地、虐殺地 → 水道橋：避難地 → 中村八幡宮：「関東大震災慰霊碑」→ 中村町ケアプラザ → 信愛塾 - 3時45分終了予定

◇ 参加者：申込先着 15 人

◇ 参加費：1000 円（資料代含む）

フィールドワーク③

日雇い労働者と福祉の町、寿町を訪ねる

教育の現場で「共に生きる」ということばが飛び交っています。それにもかかわらず、子どもたちの心の中には「ホームレス」＝「怠け者」意識が根強くあります。しかし振り返ってみれば、そのような意識は、子どもだけではなく、競争社会の中で成績や能力などで人を序列化する大人社会、ひいてはこの社会全体に、はびこっている意識なのではないでしょうか。コトブキはそのことを私たちに教えてくれます。「寿」という現場に来て、コトブキ（この日本社会の問題が集約されている地域）、そして「ホームレス」の人たちと共に生きるとはどういうことなのかを、と一緒に学びあいたいと思います。

◇ 集 合：8月8日（月）12時30分、JR「石川町駅」中華街口（北口）改札

◇ 講 師：三森妃佐子さん（日本基督教団神奈川教区寿地区センター主事）

◇ 内 容：寿の概略、貧困、人権のはなしー「ホームレス」と出会う子どもたちDVDー寿見学ー16時終了予定

◇ 参加者 申込先着 15 人

◇ 参加費 1000 円（資料代含む）

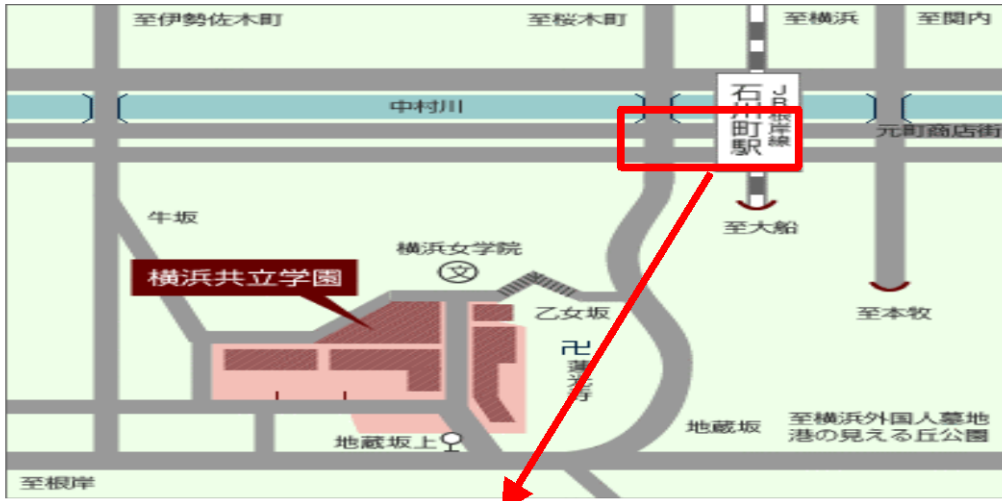
会場の横浜共立学園中学高等学校について

●お知らせ

- ◇校舎内は土足禁止のため、室内履きをご持参ください。
- ◇坂の上にある学校のため、荷物が重い場合などはタクシーの利用（710円）などもご検討ください。
- ◇校舎内は、エレベーターはございません。ご了承ください。

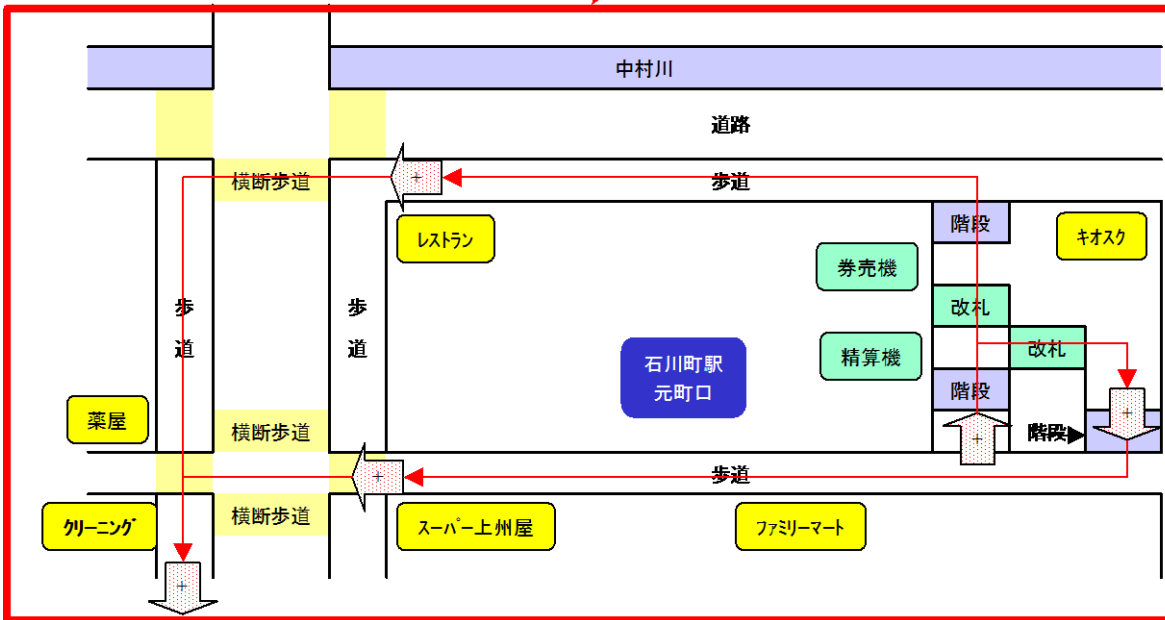
●行き方

- ①電車のみ利用：JR 京浜東北・根岸線「石川町駅」元町口（南口）下車、徒歩10分
- ②電車とバスの利用：JR 京浜東北・根岸線、JR 横浜線「桜木町駅」下車、
神奈川中央交通バス 11 系統「保土ヶ谷駅東口」行きに乗車、バス停「地蔵坂上」下車徒歩1分（所要時間約17分、210円）



《バス時刻表》

桜木町駅→地蔵坂上	
平日	
8	13,29,45,59
9	21,50
10	23,43
11	06,31,56
12	21,52
13	13,38
14	03,26,56
15	26,49
16	11,36,59
17	19,34,52
18	12,27,51
19	16,36,53
20	16,41,59
21	27,55 (最終)
22	



地蔵坂上→桜木町駅	
平日	
8	14,29,49
9	14,51
10	07,32,57
11	22,44
12	16,37
13	02,32,54
14	22,54
15	17,37
16	02,24,45
17	02,18,34,55
18	19,46
19	02,22,44
20	09,28,55
21	23 (最終)
22	

